



<https://language.sakura.ne.jp/kjltip/>

令和7年度日本語教師養成・研修推進拠点整備事業 (近畿ブロック) 報告書

実施機関名	国立大学法人神戸大学
事業名称	日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)
事業実施期間	令和7年4月～令和8年3月

公開日 2026/3/17
照会先:事業責任者 石川慎一郎
iskwshin@gmail.com

報告書の構成

- 1. 事業の目的
- 2. 事業の体制
- 3. 年間実施実績
 - 3-1. 公開研修会
 - 3-2. 部会等の取組
 - ①協議会 ②連携部会 ③研修部会 ④調査部会 ⑤支援部会 ⑥独自取組
- 4. 事業評価
- 5. 成果と課題

1. 事業の目的

近畿地区における

- (1) 日本語教育関連機関のネットワークづくり
- (2) 各機関における日本語教師養成課程の質的向上
- (3) 日本語教師教育者向け研修の充実
- (4) 登録日本語教員制度の周知の強化
- (5) 上記の前提となる基礎調査の推進

2. 事業の体制(1) 全体構成

- 拠点校：神戸大学、参画機関：38機関
- ○養成課程を有する大学(20機関)
 - 【兵庫：7機関】 大手前大学、関西学院大学、関西国際大学、神戸大学、神戸女学院大学、甲南大学、武庫川女子大学
 - 【大阪：8機関】 追手門学院大学、大阪大学、大阪大谷大学、大阪教育大学、大阪産業大学、関西大学、摂南大学、桃山学院大学
 - 【京都：4機関】 京都教育大学、京都産業大学、京都精華大学、立命館大学
 - 【奈良：1機関】 天理大学
- ○連携大学(6機関)
 - 京都教育大学、滋賀大学(連携部会に所属して活動)
 - 大阪樟蔭女子大学、京都女子大学、奈良教育大学、和歌山大学(他部会に所属して活動)
- ○日本語学校等(7機関)
 - 【兵庫：1機関】 コミュニカ学院
 - 【大阪：4機関】 大阪YWCA、大阪YMCA、南大阪国際語学学校、友ランゲージアカデミー大阪校
 - 【京都：1機関】 京都民際日本語学校
 - 【奈良：1機関】 エイム奈良国際アカデミー
- ○行政系機関(5機関)
 - 【兵庫：2機関】 兵庫県国際交流協会、神戸国際コミュニティセンター
 - 【大阪：2機関】 国際交流基金関西国際センター、大阪府国際交流財団
 - 【京都：1機関】 京都府国際センター
- ※2026年4月より、京都外国語大学、日本国際協力センター関西支所が新規参画予定

2. 事業の体制(2) 事業内構成

- 協議会(全体会議)
 - 連携部会:機関代表者が参画し、全体の企画・評価を担当
 - 調査部会:地域におけるニーズ調査や実態調査を企画・実施
 - 研修部会:地域における教師教育者研修について企画・実施
 - 支援部会:海外ルーツ児童生徒支援に関する研修の企画・実施
-
- 拠点校ワーキンググループ: 企画、学内調整、全体調整、予算管理

2. 事業の体制(3) 拠点校内構成

- 神戸大学国際文化学研究所 (☑連携: グローバル教育センター他)
(職員組織)
 - 総務係: 人員雇用、契約関係を所轄
 - 会計係: 経費管理を所轄
 - 教務係: 日本語教師養成サブコース運営にかかる教務事項を所轄
- (教員組織)
 - 日本語教師養成サブコース運営委員会: サブコースの企画運営にかかる事象を所轄
 - 拠点ワーキンググループ: 拠点事業の企画運営にかかる事象を所轄

3. 年間実施実績(1) 概観

部会(内部)

- 5/17 第1回合同部会・各部会(参加51名)
- 9/6 第2回合同部会・各部会(参加44名)
- 12/20 第3回合同部会・各部会(参加54名)

※年間参加部会員数(延べ)149名

※会場はすべてヒルトンプラザウェスト会議室

公開研修会等

- 4/20 第1回公開研修会(参加42名)
- 5/17 第2・3回公開研修会(参加61名)
- 9/6 第4-6回公開研修会(参加52名)
- 12/20 第7-8回公開研修会(参加53名)
- 2/7 第9回公開研修会(参加49名)
- 3/1 第10回公開研修会(参加42名)
- 3/21 第2回シンポジウム(参加見込み約120名)

※年間参加者数(延べ) 約420名

※会場は第9回のみMeeting Space AP茶屋町、そのほかはすべてヒルトンプラザウェスト会議室

3-1(1) 第1回公開研修会(支援部会企画)

- テーマ: 「子どもに対する日本語指導と発達障害への対応」
- 企画趣旨: 外国ルーツの児童・生徒の日本語支援の実践に関して、教師の対応力を向上させるため、「発達障害」の特性について理解を深める。
- 講師 清長豊氏・清長摩知子氏(NPO法人アジャスト)
- 参加者数: 42名

文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)
2025年度第1回研修会

「子どもに対する日本語指導と発達障害への対応」

日本語指導が必要な子どもたちの中には、言語以外の点で問題を抱えている子もいます。その一つが発達障害です。しかし、言語の障害もあって問題の特定ができず、適切な支援が受けられないままになってしまうことがあります。

本研修会では、発達障害を抱える子どもたちに対し、より適切な日本語指導や支援を行うために、発達障害に対する理解を深め、どのような工夫ができるかを学びます。

日時: 2025年4月20日(日) 13時~15時30分
会場: ヒルトンプラザウェスト8階会議室A・B
参加方法: 要事前申込。※4月13日(日)までに右のQRコードもしくはURLから参加申し込みフォームにアクセスし、お申し込みください。先着順(定員あり)。
参加費: 無料

講演①「発達障害の理解」
清長 豊氏(公認心理師、NPO法人アジャスト代表理事)

講演②「外国につながる発達特性を持つ子ども達への実践」
清長 摩知子氏(公認心理師、NPO法人アジャスト副代表理事)

【参加申し込みフォーム】
※事前質問も受け付けます。



<https://forms.gle/22G8Rck5dpQuqy6g7>

企画・実施: 文部科学省日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック) 支援部会
問い合わせ: k0117939@gsuite.kobe-u.ac.jp (青藤)



清長豊・清長摩知子講師ご講演



会場風景

3-1(2) 第2-3回公開研修会

- テーマ:「登録日本語教員時代に求められる2つの視点—「連携」と「史的俯瞰」—」
- 企画趣旨:新年度の事業開始にあたり、他拠点のすぐれた活動から学ぶとともに、国の施策などに対する理解を深める。
- 講師 橋本直幸氏(福岡女子大)「地域の日本語教育関連機関の連携をどう進めるか? ~九州・沖縄の取り組みを通して」
- 講師 田尻英三氏(龍谷大名誉教授)「文部科学省の日本語教育施策と日本語教師養成」
- 参加者数:61名



3-1(3) 第4-6回公開研修会

- テーマ「日本語教員の養成と研修をどう変えていくか?実態と実践から学ぶ」
 - 企画趣旨:調査部会による実態調査をふまえ、教師教育者研修のあり方について理解を深める。
 - 講師 高橋 裕一氏(国際交流基金)「ミニトーク:国際交流基金・日本語パートナーズ派遣事業」
 - 講師 川上尚恵氏(神戸大)・辻本桜子氏(大阪教育大)「近畿における日本語教員養成・研修実態調査の中間報告」
 - 講師 北出慶子氏(立命館大)・嶋津百代氏(関西大)・杉本香氏(大阪大谷大)「日本語教育現場と養成課程の乖離を解消するには?」
- 参加者数:52名



3-1(4) 第7-8回公開研修会

- テーマ「新しい日本語教師教育者研修のあり方をめぐって—実践と理論の往還—」
- 企画趣旨:教師研修の実態を学び、教師教育者に望まれる資質について知見を深める。
- 講師 竹田悦子氏(コミュニカ学院)「コミュニカ学院における教師研修の現状と課題」
- 講師 柳本真未氏(南大阪国際語学学校)「南大阪国際語学学校における教師研修の現状と課題」
- 講師 砂川裕一氏(群馬大名誉教授)「日本語教師の視野の拡充のために～日本事情教育の視界・領界の広がりを踏まえて～」
- 参加者数:53名



3-1(5) 第9回公開研修会(研修部会企画)

- テーマ: 「リフレクションと対話を通じた教師の成長」(研修部会企画)
- 企画趣旨: 教師および教師教育者の自律的成長に必要なリフレクション技術について知見を深める。
- 講師 渡辺貴裕氏(東京学芸大)
- 第1部 「誤解がいっぱい!? リフレクション」
- 第2部 「リフレクションを深める対話とその体験」
- 参加者数: 49名



3-1(6) 第10回公開研修会(調査部会企画)

- テーマ: 「日本語教師教育者のための50項目指導法研修セミナー」(調査部会特別企画)
- 企画趣旨: 実態調査の結果、50項目のうち現状の指導が手薄であった2項目を取り上げ、教師教育者の知見を深める。
- 講師 上田崇仁氏(南山大) 「日本語教育史を100倍面白くするウラ知識」
- 講師 笠井陽介氏(国際交流基金関西国際センター) 「日本語教師と著作権—著作権に配慮できる日本語教師の育成を目指して」
- 参加者数42名



3-1(7) 第2回公開シンポジウム

- テーマ:「VUCAの時代における日本語教師養成と教員研修—変わるものと変わらないもの—」
- 企画趣旨: 近畿の日本語関係機関の連携深化とともに、日本語教育を学ぶ学生、地域の社会人などを広く巻き込み、地区における登録日本語教員制度の普及の一助とする。
- 学生ポスターセッション20件、日本語学校セッション8件、事業報告1件、文科省講演1件、養成課程紹介3件、基調講演1件、全35件の発表を実施。
- 参加者数(見込み): 120名

プログラム	
第1部 近畿日本語教育スチューデント・フォーラム	
09:40-11:10 「域内大学の学生・院生による日本語教育の学びの成果発表会」 発表者:近畿圏の大学生・大学院生等(全20件、29名) 0940-セッションA 7件、1010-セッションB 7件、1040-セッションC 6件	
11:15-12:30 「ようこそ日本語教育の世界へ:日本語学校の先生方による学生向けスペシャルトークII」	
司会 内田さつき氏(コミュニケーション学院)	
第1部:若手教員が語る日本語教師の仕事の「リアル」 講師: 瀬川愛氏(大阪YMCA学院)、杜瑞凌(と・ずいりょう)氏(南大阪国際日本語学校)、中島葛氏(友ランゲージアカデミー)、中村堯氏(コミュニケーション学院)、横山結衣氏(京都民際日本語学校)	
第2部:採用担当者が語る日本語教師採用の「リアル」 講師: 岸田久美子氏(京都民際日本語学校・教務部長)、野口涼子氏(大阪YMCA学院・副主任)、山岸宏明氏(友ランゲージ大阪校・副校長)	
12:30-13:00 昼食休憩/情報交換会(※会場規定により、弁当の持ち込みはご遠慮下さい)	
第2部 研究協議会	
13:00-13:25 開会・拠点事業 2025 年度活動報告 石川慎一郎氏(神戸大学・拠点責任者)「事業2年目を振り返って:協働の和を縦横に広げる」	
13:30-14:10 文部科学省講演 降旗 友宏氏(文部科学省総合政策局日本語教育課長)「日本語教育政策の展望と日本語教師養成・研修推進拠点への期待」	
14:20-15:20 「近畿の日本語教員養成最前線:Good Practicesの共有を目指して」 榊引祐希子氏(大阪教育大学)「大阪教育大学の養成課程の特徴」 長谷川哲子氏(関西学院大学)「関西学院大学大学院の養成課程の特徴」 野々口ちとせ氏(甲南大学)「甲南大学の養成課程の特徴」	
15:30-16:30 記念講演 李在鎬氏(早稲田大学)「生成AI時代の日本語:日本語学習者・日本語教師・日本語教師教育者にとつてのAIの意味」	
16:30-17:00 全体討議・外部評価委員講評・閉会 評価委員:石澤徹氏(東京外国語大学)・松下達彦氏(国立国語研究所)・李在鎬氏(早稲田大学)	

3-2 部会等の取り組み（1）協議会

- 主な成果：2024年度同様、シンポジウムを企画・実施。
- シンポジウム「K-JLTPシンポジウム」は、2026年3月21日に開催予定であり、今年度の進捗成果を地域社会に報告し、地域における日本語教育制度への理解の増進を目的とする。
- シンポジウムにおいては、地域日本語教員の研修機会となりうる「講演」や「ワークショップ」を企画するとともに、登録日本語教員制度に関する最新の動向などを告知。
- シンポジウム総時間：7.5時間
- 参加者は申し込みベースで約120名（本報告執筆時点で未実施）

3-2 部会等の取り組み (2) 連携部会①

- 設置目的:提携機関の拡大、提携機関の連携強化、協議会事業の企画立案
- 開催実績等:ヒルトンプラザウェストで、計3回の部会を開催した。(2025年5月17日(土)、2025年9月6日(土)、2025年12月20日(土)のそれぞれ10:00~12:00)
- 構成員:石川慎一郎 他33名 下記のリストのとおり

氏名	所属
石川慎一郎	神戸大学
伊藤創	関西国際大学
今西利之	京都産業大学
氏原庸子	大阪YWCA専門学校
内田さつき	コミュニカ学院
大河内瞳	桃山学院大学
門脇薫	摂南大学
亀田美保	大阪YMCA
菊池律之	天理大学
北出慶子	立命館大学
櫛引祐希子	大阪教育大学
近藤徳明	京都府国際センター
櫻井千穂	大阪大学
篠原典子	兵庫県国際交流協会
嶋津百代	関西大学
新矢麻紀子	大阪産業大学
杉本香	大阪大谷大学
住田伸夫	京都民際日本語学校

氏名	所属
滝井未来	滋賀大学
建石始	神戸女学院大学
田中恵子	神戸国際コミュニティセンター
戸川朝子	南大阪国際語学学校
中岡樹里	京都精華大学
野々口ちとせ	甲南大学
野畑理佳	武庫川女子大学
長谷川哲子	関西学院大学
浜田麻里	京都教育大学
松本剛次	大手前大学
真嶋潤子	国際交流基金関西国際センター
目黒裕将	エイム奈良国際アカデミー
藪崎淳子	追手門学院大学
山岸宏明	友ランゲージアカデミー
山崎宏樹	国際交流基金関西国際センター
吉川友香	大阪府国際交流財団

3-2 部会等の取り組み (2) 連携部会②

●第1回部会(2025年5月17日実施) 出席者数:25名

- ・ 参画機関内の状況共有と連携基盤の強化を図るべくヒアリングを実施。

(1)「神戸女学院大学の日本語教師養成課程について」
報告者: 建石始 氏

(2)「天理大学の日本語教師養成課程について」報告者:
菊池律之 氏

(3)「大阪 YWCA 教師会における教師研修について」報
告者: 氏原庸子 氏

- ・ ヒアリング後にはテーブルディスカッションを行い、3機関の取り組みについて討議、意見交換を行った。
- ・ 近畿の各機関の連携を深める必要性について協議した。



3-2 部会等の取り組み (2) 連携部会③

- 第2回部会 (2025年9月6日実施) 出席者数: 18名
- 参画機関内の状況共有と連携基盤の強化を図るべく、以下3点のヒアリングを実施。
 - (1) 「大阪大学の日本語教師養成課程について」
報告者: 櫻井千穂氏
 - (2) 「大阪大谷大学の日本語教師養成課程について」
報告者: 杉本香氏
 - (3) 「神戸国際コミュニティセンターの業務について」
報告者: 田中恵子氏
- ヒアリング後にはテーブルディスカッションを行い、3機関の取り組みについて討議、意見交換を行った。
- 近畿の各機関の連携を深める必要性について協議した。



3-2 部会等の取り組み (2) 連携部会④

●第3回部会(2025年12月20日実施) 出席者数:25名

・参画機関内の状況共有と連携基盤の強化を図るべく、以下3点のヒアリングを実施。

(1)「関西大学の日本語教師養成課程について」

報告者: 嶋津百代 氏

(2)「立命館大学の日本語教師養成課程について」

報告者: 北出慶子 氏

(3)「(公財)大阪府国際交流財団の事例報告」

報告者: 吉川友香 氏

・ヒアリング後にはテーブルディスカッションを行い、3機関の取り組みについて討議、意見交換を行った。

・近畿の各機関の連携を深める必要性について協議した。



3-2 部会等の取り組み (2) 連携部会⑤

●登録日本語教員の裾野を広げる広報戦略の展開

- ・拠点サイトに、高校生向け参画大学養成課程紹介ページを新設(全大学のリーフレットを一括掲載)
- ・近畿の公立高校約450校に、「登録日本語教員」の仕事と拠点事業の活動を伝えるポスターを制作・配布。
- ・高校生の日本語関係の探究活動支援制度を整備し、リクエストがあれば適材を紹介する仕組みを構築。



3-2 部会等の取り組み (3) 研修部会①

- 設置目的: 研修事業へのニーズ調査、研修プランニング、研修の試行実施、事後評価
- 開催実績等: 大阪ヒルトンプラザウェストで、計3回の部会を開催した。(2025年5月17日(土)、2025年9月6日(土)、2025年12月20日(土)のそれぞれ10:00~12:00)
- 構成員: 林良子 他18名 下記のリストのとおり

氏名	所属
林良子	神戸大学
池田尋斗	神戸大学
岡本牧子	大阪YWCA専門学校
奥美和子	大阪YWCA専門学校
奥居薪子	京都民際日本語学校
熊野七絵	国際交流基金関西国際センター
嶋津百代	関西大学
嶋本圭子	和歌山大学
新谷葉菜	コミュニケーション学院
住田哲郎	京都精華大学

氏名	所属
竹田悦子	コミュニケーション学院
永井邦明	京都民際日本語学校
中山英治	大阪産業大学
野瀬由季子	大阪教育大学
朴秀娟	神戸女学院大学
朴鍾祐	神戸大学
平田裕	立命館大学
安田麗	神戸大学
柳本真未	南大阪国際語学学校

3-2 部会等の取り組み (3) 研修部会②

●第1回部会(2025年5月17日実施) 出席者数:13名

- 昨年度の振り返りと近況報告
- 今後の公開研修のプランニング:公開研修会を企画するにあたって、構成員が受講を希望する研修内容と講師に関するアンケート調査を実施し、調査結果を共有した上で今後の研修会のテーマと講師人選について意見交換を行い、大まかな方向性を確認した。
- 具体的には、「TP チャートの作成」「生成 AI の活用」「教師の自己研鑽・授業改善の方法」「リフレクション, 実践の振り返り」「日本語参照枠について」といったテーマの研修を望む声が多いということがわかった。



3-2 部会等の取り組み (3) 研修部会③

- 第2回部会 (2025年9月6日実施) 出席者数: 13名
 - ・ 公開研修会に関する報告: 第1回の部会で候補に挙がっていた複数名の講師候補者に連絡をとり、スケジュールの都合が調査で来た渡辺貴裕氏に「リフレクション、実践の振り返り」というテーマで研修を行なっていくことを共有した。
 - ・ ミニワークショップの実施: 「どんな教師を育てたいか」「何を大切にしているか」といった教師のビリーフ (beliefs) に関する深い振り返りを促すミニワークショップを、朴秀娟氏、竹田悦子氏による話題提供のもとに実施した。
- 第3回部会 (2025年12月20日実施) 出席者数: 12名
 - ・ ミニワークショップの実施: 「生成AIを前提に日本語教育をどう設計するか」というテーマのもと、住田哲郎氏によるミニワークショップを実施した。4つのグループに分かれ、AIを前提にした課題や活動を以下の項目について一つ考え、最後に各グループの案を発表した。



3-2 部会等の取り組み (4) 調査部会①

- 設置目的: 養成機関のニーズ、教師側のニーズ、教師受け入れ機関のニーズの調査
- 開催実績等: 大阪ヒルトンプラザウェストで、計3回の部会を開催した。(2025年5月17日(土)、2025年9月6日(土)、2025年12月20日(土)のそれぞれ10:00~12:00)
- 構成員: 川上尚恵 他10名 下記のリストのとおり

氏名	所属
川上尚恵	神戸大学
新井潤	関西学院大学
北出慶子	立命館大学
芹澤円	神戸大学
住田伸夫	京都民際日本語学校
高梨信乃・伊澤明香	関西大学
辻本桜子	大阪教育大学
波多野博顕	神戸大学
春口淳一	大阪産業大学
丸山友子	コミュニカ学院
村尾元	神戸大学

3-2 部会等の取り組み (4) 調査部会②

●第1回部会(2025年5月17日実施) 出席者数:6名

・調査について:本年度実施する調査のスケジュールおよび調査項目の検討を行った。スケジュールは、7月中に調査票を発送し、8月上旬に回答期限を設け、9月6日の午後の公開研修会(第5回公開研修会)にて報告することとなった。

・調査項目の作成:フェイスシートおよび調査票のたたき台を作成し検討した。オンライン会議およびチャット機能を活用して、調査票を完成させることを確認した。



3-2 部会等の取り組み (4) 調査部会③

●第2回部会(2025年9月6日実施) 出席者数:7名

・調査結果についての意見交換:結果について考察や意見交換を行った。今後は国家試験の受験・合格者数の確認も各機関で必要になってくるのではないかと予測や、日本語教師養成機関がないところについての情報交換などを行った。また、ICT、著作権、教育史といった教えることが難しい項目については、動画を作成するなどの研修も意見としてあがった。

・結果の分析とまとめ方について:2025年度中に報告書としてまとめ、拠点HPに掲載及び調査協力者へ送付することとなった。分析の進め方としては、質的なコーディングやクロス集計を実施することとした。

●第3回部会(2025年12月20日実施) 出席者数:5名

・調査報告書の作成:調査報告書の様式や書くべきことについて確認した。9月の第5回公開研修会にて発表した内容を作成中の報告書に追記した。概要と質問事項1~13番までのデータと記述を確認し、コメントを出し合い、追記した。

・3月1日実施予定の第10回公開研修会に関する打ち合わせ:検討事項として、事前の質問が受付可能かどうか、受け付ける場合のフォームの作成が必要となることが共有された。



3-2 部会等の取り組み (5) 支援部会①

- 設置目的:地域社会におけるニーズをふまえた外国ルーツ児童生徒の支援体制の調査
- 開催実績等:大阪ヒルトンプラザウェストで、計3回の部会を開催した。(2025年5月17日(土)、2025年9月6日(土)、2025年12月20日(土)のそれぞれ10:00~12:00)
- 構成員:齊藤美穂 他13名 下記のリストのとおり

氏名	所属
齊藤美穂	神戸大学
有田節子	立命館大学
伊澤明香	関西大学
和泉元千春	奈良教育大学
大河内瞳	桃山学院大学
黒田千晴	神戸大学
中谷潤子	大阪産業大学
長友文子	和歌山大学
滑川恵理子	京都女子大学
新美太基	甲南大学
浜田麻里	京都教育大学
松本理美	大阪樟蔭女子大学
水野マリ子	学習支援学校ボランティア研究会
米澤千昌	大阪教育大学

3-2 部会等の取り組み (5) 支援部会②

- 第1回部会(2025年5月17日実施) 出席者数:8名
- 今年度の活動方針の確認:今年度の支援部会の活動について、昨年度第3回の会合で示された提案をもとに、以下の方針を確認した。
 - (1) 発達障害を抱えた外国につながる子どもへの支援について:本部会の企画として、2025年4月20日(日)13時~15時半に、「子どもに対する日本語指導と発達障害への対応」というテーマの研修会実施
 - (2) 学校教員養成課程における日本語指導のための教育内容の把握
 - (3) 未就学児への指導(日本生まれの子どもと保護者との関係等)の実態把握
 - (4) 留学生(母語支援者)へのキャリア形成支援



3-2 部会等の取り組み (5) 支援部会③

●第2回部会(2025年9月6日実施) 出席者数:6名

- 学校教員養成課程における日本語指導のための教育内容の共有:部会員の滑川氏より、学校教員養成課程において、日本語指導が必要な児童生徒への対応に関する教育がどのように扱われているかに関する情報共有があった。教職課程のカリキュラムと登録日本語教員養成カリキュラムの有機的な連携や、両課程の並行履修を想定した教育内容のあり方などについて意見交換を行った。
- 外国につながる未就学児への指導について:支援部会のメンバーより、保育現場における日本語教育実習について報告がなされた。
- 支援部会の今後の活動について:支援部会の今後の活動として、9月に実施予定の調査及び12月に実施予定の研修会について意見交換を行った。



3-2 部会等の取り組み (5) 支援部会④

●第3回部会(2025年12月20日実施) 出席者数:7名

- 学校教員養成課程における日本語指導のための教育内容の共有:部会員の米澤氏より、大阪教育大学における教員養成課程に在籍する学生を対象とした日本語教育関連科目について、「日本語教育副専攻プログラム」、「外国にルーツのある子どもの教育プログラム」などについて紹介があった。さらに、新入生の必修科目として設定されているダイバーシティ教育科目群や、学校教員を目指す学生が履修できる日本語指導関連のカリキュラム構成の紹介があり、その授業内容などについて意見交換を行った。
- 支援部会の次年度の活動について:日本語教師教育者を対象に以下のような研修の実施を検討することとした。
 - (1)教員養成課程に在籍する学生を対象とした日本語指導・日本語教師養成に関する研修
 - (2)「多様性の包摂」をキーワードとした日本語指導・日本語教員養成に関する研修
 - (3)文化的言語的に多様な背景を持つ外国人児童生徒等のためのことばの発達と習得のものさし(略称「ことばの力のものさし」)に関する研修
 - (4)外国にルーツのある子どもの日本語指導に関する事例共有



3-2 部会審議の記録と公開

- すべての議事録をウェブサイトで公開
- 全体議事録を1ファイルに統合した合同議事録システムとして整備
- 表紙のリンクを押すと、各回、部会別の議事が即時に確認できる



<https://language.sakura.ne.jp/kjltpl/>

文部科学省 日本語教師養成・研修推進拠点整備事業(近畿ブロック)

議事録統合版クイックリンク

※以下の表内の各項目より、ご覧になりたい箇所を選び、Ctrl+クリックしてください

	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
第1回	全体・連携・研修・調査・支援 (参加:45名)	全体・連携・研修・調査・支援 (参加:51名)		
第2回	全体・連携・研修・調査・支援 (参加:52名)	全体・連携・研修・調査・支援 (参加:44名)		
第3回	全体・連携・研修・調査・支援 (参加:46名)	全体・連携・研修・調査・支援 (参加:54名)		

3-2 部会等の取り組み (6)

拠点校独自取組①

- 概要
- 設置目的: 日本語教員養成を担う「日本語教師養成サブコース」の制度面・実施面でのさらなる強化と拡充、関係団体との連携強化
- 構成者: 石川慎一郎・齊藤美穂・川上尚恵・林良子・田口歩美・中村堯
- 開催実績等: オンライン上で、計8回(8時間)の会議を開催した。(2025年4月18日(金)、2025年5月16日(金)、2025年6月20日(金)、2025年7月25日(金)、2025年10月17日(金)、2025年11月21日(金)、2025年12月19日(金)、2026年1月16日(金)のそれぞれ9:30~10:30)

● サブコース運営体制の基盤強化

- (1) 「日本語教師養成サブコース高度化事業」(代表: 石川慎一郎) が神戸大学国際文化学研究所の教育研究プロジェクトに採択され、研究科からの資金援助を受けた。
- (2) 国際文化学研究所よりサブコース運営委員会に対する基盤経費が交付され、日本語教師サブコースの質的充実の財政的基盤が整った。

→ 受講生を集めたランチョンセミナー実施、登録日本語教員試験関連書籍の配布など、受講生の帰属意識を高め、コース修了を確実にするサポート事業を実施することができた。



ホーム SC概要 修了生の声 講義ビデオ イベント・NL プログラム評価 文科省拠点関連

Link
神戸大学
神戸大学国際文化学研究所
神戸大学国際文化学研究所 Promis
文部科学省総合政策局日本語教育課
文化庁国語課

神戸大学国際文化学研究所日本語教師養成サブコースの紹介

高い専門性と教養を備えた次世代の日本語教育リーダーを養成します

神戸大学国際文化学研究所では、発足以来、多くの日本語学・日本語教育分野の研究者や実践者を輩出してきました。この背景を踏まえ、2015年度に、主として博士課程前期課程所属学生を対象に、「日本語教師養成サブコース」を新設しました。

同様のコースは多くの大学に設置されていますが、本学のコースは、(1)大学院レベルに設置されている、(2)所属コースでの専門分野の学修に加えてadd-onで学ぶサブ

3-2 部会等の取り組み (6)

拠点校独自取組②

●ランチョンセミナーの実施:本年度は下記3回のランチョンセミナーを実施した。

(1) 2025/4/30 「海外で日本語を教える」(講師:甲藤瞳氏、大塚真理子氏)

(2) 2025/7/31 「中国で日本語を教える」(講師:張晶鑫氏)

(3) 2026/1/7 「応用試験受験とその先のキャリアパス」(講師:内田さつき氏)

●ニュースレターの刊行

事業補佐員によるニュースレターを定期的に刊行し、実際の現場の声や先輩日本語教員からのメッセージなどを通して、養成課程の学生が日本語教育現場を身近に知れる機会を提供した。

●地域の関連機関との連携・協力強化

本事業を契機として昨年度以降、地域の日本語学校との連携も深まり、2026年1月には、サブコース科目の一つである「外国語教育内容論特殊講義Ⅱ(応用言語学入門)」において、担当教員(石川慎一郎)の引率のもと、全受講生が神戸市のコミュニカ学院での見学・授業参加を行った。

日本語教員養成サブコース 2025年度第3回ランチョンセミナー

踏み出そう、
応用試験への
第一歩

2026.01.07 Wed 12:15~13:15

応用試験受験と
その先のキャリアパス

会場: 神戸大学国際文化学研究所 D603

プログラム

- ・開会あいさつ 石川慎一郎 教授
- ・講演 内田さつき 先生 (コミュニカ学院長)
- ・「登録日本語教員と応用試験」
- ・ミニトーク 廣沢奇 さん (博士後期課程2年生)
- ・「サブコース受講から応用試験合格まで: 後輩へのメッセージ」
- ・意見交換・質疑応答

講師: 内田さつき 先生 話題提供: 廣沢奇 さん

2001年よりコミュニカ学院勤務。教員養成や「読む力」シリーズの出版に関わる。文部科学省委任教員研修実践委員、日本語教育学会チャレンジ支援委員、ビジネス日本語研究会幹事。

大連海事大学日本語専攻卒業。神戸大学大学院国際文化学研究所博士前期課程を経て現在、後期課程2年生。専門はコアパスを用いたオノマトヘの量的分析。

本セミナーは国際文化学研究所教育研究プロジェクト「日本語教員養成サブコース高度化プロジェクト」の支援のもと、日本語教員養成サブコース運営委員会が企画・実施しています。

神戸大学大学院国際文化学研究所日本語教員養成サブコース 発行日: 2025年5月27日

News Letter にほんごをおしえる 第1号

神戸大学大学院国際文化学研究所 学生研究支援員/博士課程後期課程1年 中村 真

はじめまして

神戸大学大学院国際文化学研究所に設置されている日本語教員養成サブコースに関する業務を担当させていただいている中村真と申します。ご存知の方もいるかも知れませんが、以下に簡単なプロフィールを紹介いたします。

- 名前: 中村 真 (なかむら まこと)
- 出身: 長崎県長崎市
- 趣味: パーラーボール・旅行・研究!
- 好きなもの: コーヒー・タルタルソース

現在は言語聴覚や方言に興味をもって研究活動を進める傍ら、週に2日、日本語教育関係の学生支援員として勤務しています。

私自身も2022年4月に国際文化学研究所の博士課程前期課程に入学し、前専攻として設置されている日本語教員養成サブコースを履修していました。修士課程の2年間は本当にあっという間で、2024年1月にサブコース一修了認定証をいただくことができました。当時は、その年の4月から某国立大学で事務員として働くことが内定していたのですが、なんとその2ヶ月前に内定を辞退しました。修士論文も提出し終え、研究もすっかりお別れするつもりでしたが、人生は何があるかわからないものです。『...なぜ内定を辞退したのか?』と『日本語教員の世界に導かれていくような気がしたかな?』というところでしょうか。その経緯については、また改めてお話しする予定です。

事務室の紹介

普段の業務は、神戸大学国際文化学研究所(御甲第1キャンパス)のA棟302で行なっています。ご質問やご相談などありましたら、いつでもお気軽にお越しください。ただ、窓がないので長居はお控えできません...

新米教師のつぶやき

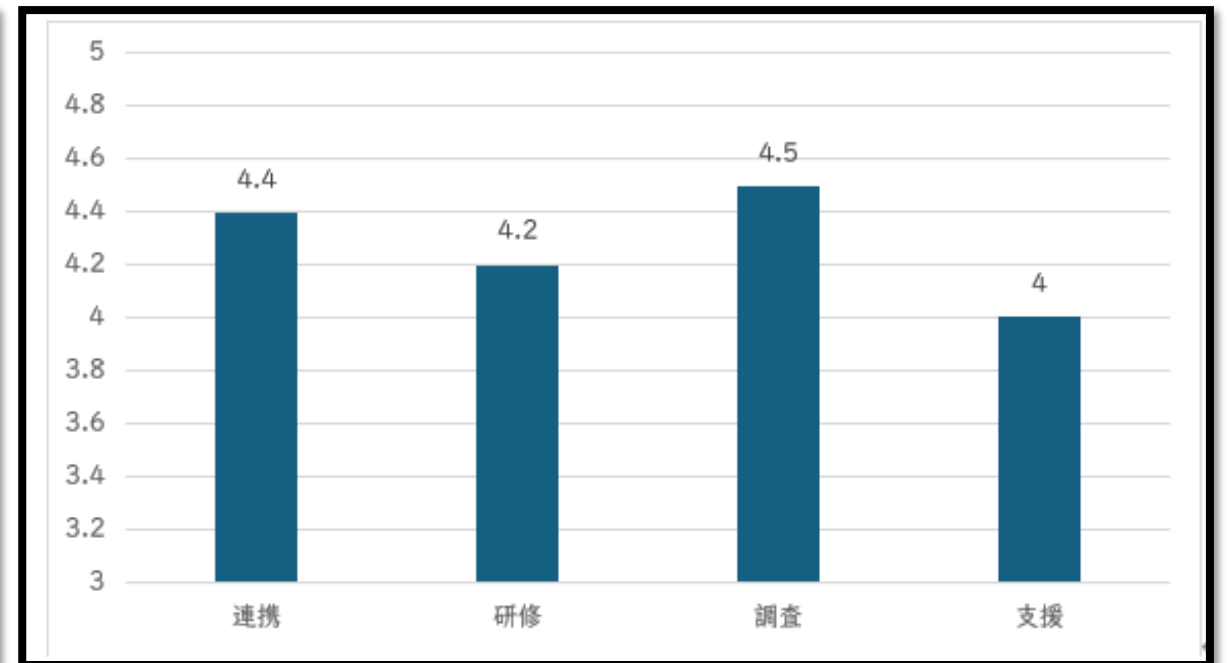
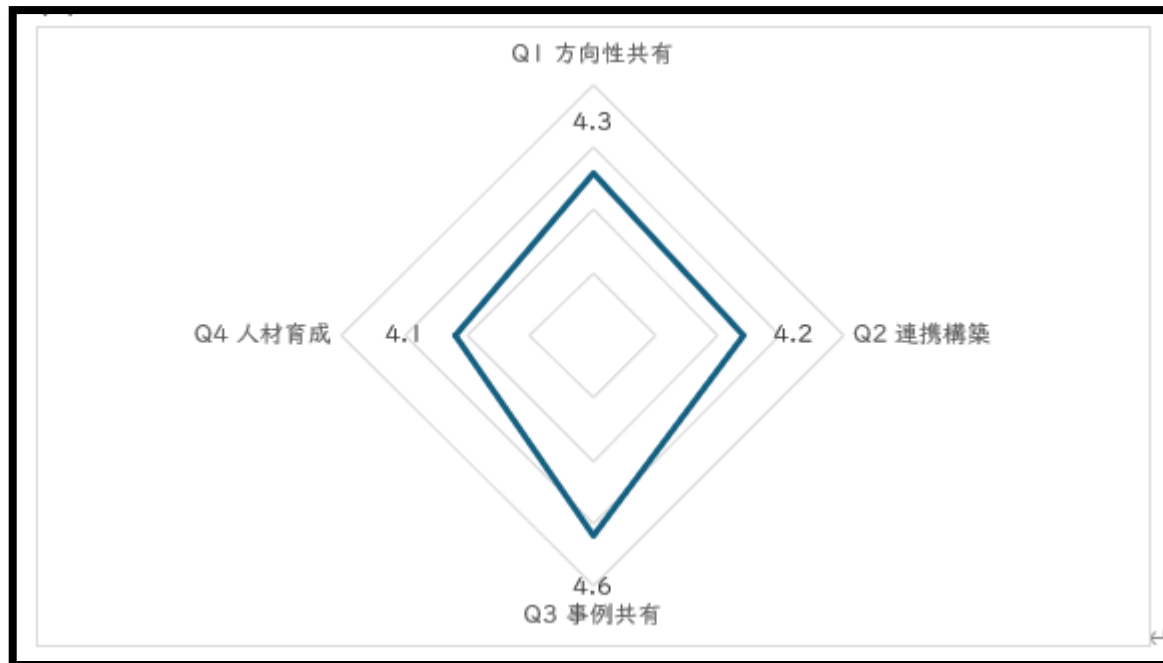
物心がついた頃から、「将来の夢は?」と聞かれれば「教師」と即答していたはず。ずっと夢に描き続けていました。大学4年生のときには、某高校の教員免許取得のため、毎日の授業で教員実習を行いました。毎日楽しくて仕方なかったのを今でもはっきり覚えてます。まさか日本語の教師になるとは夢にも思いませんでしたが、自分のやりたいことには必ず自分の情熱が燃えたと今も思う今日この頃です。

4-1 事業評価

- 評価については、連携部会の主導のもと、2026年3月に構成員による内部評価を実施。
- 内部評価は、量的調査（5段階リカートスケール調査）と質的調査（自由回答）を含むもので、56名の回答があり、拠点ウェブサイトの「評価」のページ（<https://language.sakura.ne.jp/kjlpt/hyoka.html>）において、事業報告書・内部報告書・外部報告書を公開。
- 4名の外部評価委員が、(1)業績報告書、(2)内部評価報告書、(3)公開シンポジウム（3/21）の現地視察に基づき、外部評価報告を実施し、公開シンポジウムの場で全参加者に対して講評コメントを述べる。
- 令和7年度分の外部評価報告書は令和8年3月中にウェブサイトで公開予定。

4-2 2025年度内部評価報告書より

- 有効回答数 56名。
- 事業目的4観点および、4部会別の達成度の自己評価平均値データ。



5 成果と課題

①連携部会

• 主な成果:

(1) 年間を通じて部会、公開研修会、公開シンポジウムを計画的に企画・実施し、安定した連携体制を維持できたこと

(2) 新規参画校の拡大や情報交換メーリングリストの継続的運用により、大学・日本語教育機関間の情報共有および人的ネットワークを強化できたこと

(3) 大学院生の非常勤講師採用や学生の日本語学校視察など、連携に基づく具体的な教育・人材交流の実績が生まれたこと

• 今後の課題

(1) 新規メンバー校のさらなる開拓によるネットワークの拡充

(2) 一般公開イベントにおける外部参加者の増加を目指した企画内容および広報方法の改善

5 成果と課題

②研修部会

・主な成果:

(1) 教師研修ニーズ調査を実施し、現場の課題を把握した上で研修企画を立案・実施できたこと

(2) 公開研修会および部会独自研修を通じて、段階的・体系的な教師研修の実践を共有できたこと

(3) 研修の母体によって研修の在り方が大きく異なるという現状を明確化できたことである。

・今後の課題:

(1) ニーズの高かったテーマに関する研修会を計画的に実施すること

(2) 大学、日本語学校、専門学校、自治体など組織特性に応じた研修モデルを検討・提示すること

5 成果と課題

③調査部会

・主な成果:

- (1) 昨年度に決定した調査項目に基づき、日本語教師養成課程を有する機関を対象とした調査を実施し、一定の回答数を得ることができたこと
- (2) 調査結果から、日本語教師養成課程における必須50項目のうち、「ICT」「著作権」「日本語教育史」に関して担当者の専門性・知識が不十分であることを明らかにしたこと。
- (3) 調査結果を踏まえ、公開研修会を開催し、現職日本語教師の知識更新を目的とした具体的な研修企画を実施できたこと

・今後の課題:

- (1) 調査結果を踏まえた教育教育者研修の実施や、調査結果から浮かび上がった課題に関する検討を行うこと
- (2) 養成機関担当者に限られている調査対象を拡大し、次年度以降は実習受け入れ機関を対象とした調査を実施すること

5 成果と課題

④支援部会

• 主な成果:

(1) 外国ルーツ児童生徒や発達障害への対応をテーマとした研修会を実施し、現場理解を深める機会を提供できたこと

(2) 日本語教師養成課程における関連教育内容について情報共有を行い、現状を整理できたこと

• 今後の課題:

(1) 外国ルーツ児童生徒への支援体制に関する実態調査の実施

(2) 養成課程の学生を対象とした研修機会の創出

5 成果と課題

⑤日本語教師養成サブコース高度化ワーキンググループ

- 主な成果:

- (1) 学内からの継続的な資金配分により、サブコースの運営および教育内容を充実させることができたこと

- (2) 講演会形式のランチョンセミナーやニュースレターの刊行、地域機関との連携協定締結を通じて、学修環境と連携体制を強化できたこと

- 今後の課題:

- (1) 受講生と修了生との縦のつながりを促進する仕組みづくり

- (2) 海外機関との連携・協力体制の構築